

店舗一覧

明石市中央部	本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
加古川市・高砂市・播磨町	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
三木市・小野市・加東市	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
神戸市東部	小天支店	加東市天神492	0795(47)1011
	滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
神戸市中央部	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
神戸市北部	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市西部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
西宮市	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489	



日新信用金庫

LINE公式アカウント

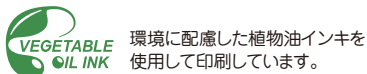
@nisshin-shinkin



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489

(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

2023年6月14日再発行

〈にっしん〉

最新の決算 ミニガイド

◆2023年5月◆

We will make a fresh step everyday.



彫画:伊藤 太一

日新信用金庫

The Nisshin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
2022年度の日本経済は、ウイズコロナの下で消費と設備投資が前期比プラスで推移するなど、緩やかに持ち直しています。

一方、ロシアのウクライナ侵攻などを契機として、原油や天然ガスなどの資源高、原材料価格の高騰、円安による輸入物価の上昇によって、消費者物価指数は前年比で3%を上回り、一時期41年ぶりに4%を超えました。長期にわたった物価低迷、デフレ局面が、インフレ傾向に変わる大きな局面転換となり、国内物価の上昇が家計・企業の活動に影響を与えています。また、世界的な金融引締め動き等により、海外の景気減速も懸念されます。

地域の担い手である中小企業・小規模事業者は、経営者の高齢化や後継者難、慢性的な人材不足といった従来からの課題に加え、これらコスト上昇分を販売価格に十分反映できておらず、経営環境は引き続き厳しい状況にあります。

そうした中、2023年3月末において〈にっしん〉は、預金残高8,125億円、貸出金残高3,995億円となり、当期純利益はお陰さまをもちまして1,460百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.88%と十分な水準にあります。

決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸甚でございます。

金融業界でも非対面のニーズが高まっておりますが、対面による“Face to Face”でなければ提供できない価値もあります。それは、顔と顔、心と心を向き合わせ、真剣に、親身に、お客さまひとりひとりと語り合い、さまざま期待にお応えするものです。

〈にっしん〉は2025年に明石信用金庫、三木信用金庫、神港信用金庫の3金庫合併から設立50周年を迎えます。これまで大切にしてきた“Face to Face”の営業活動と、これから必要性が増していくDX(デジタルトランスフォーメーション)による利便性・生産性向上の両立を図りながら、人間味ある価値と技術進化を融合させた付加価値を創造していきます。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年5月

再開しました

『ヴィッセル神戸サッカークリニック』



子どもたちが大好きなサッカーをヴィッセル神戸の選手やスクールコーチと一緒に楽しみました。(三木防災公園 2022年10月)

『新春吉本お笑いバラエーション2023』



「笑門来福」。皆さまにとって幸多き一年になりますよう祈念して開催しています。(神戸国際会館 こくさいホール 2023年1月)

イベント・セミナーの開催

『にっしん経営塾』



兵庫県立大学大学院の教授を講師に招き、全6回にわたり開催しました。(本店 2022年10月～2023年3月)

『にっしん個別商談会』



個別商談会を開催し、お客さまの販路拡大のお手伝いをしました。(本店 2022年10月)

『にっしん経営塾』のほか、中小企業の支援機関等と連携して、お客さまの経営に役立つ各種セミナーや個別商談会を開催しました。〈にっしん〉は、これからも地域のお客さまの経営のお役に立つイベント・セミナーを開催してまいります。

地域おうえん定期預金の発売



(写真は2023年1月の明石市での贈呈式の様子です。)

明石市及び神戸市の子育て支援事業を応援するため、2022年度も募集総額の0.01%相当額を寄付する「地域おうえん定期預金」を販売しました。お客さまの温かいご支援、ご協力により、多くのご契約をいただき、2022年12月に神戸市へ30万円、2023年1月に明石市へ30万円を寄付しました。

にっしん名店/銘品セレクション2022



2020年に創刊し、ご好評をいただいた「にっしん名店・銘品セレクション」の2022年版を36の事業者さまのご協力を得て、Vol.3として発行いたしました。〈にっしん〉は、これからも地域の魅力を発信してまいります。

特殊詐欺への取組み



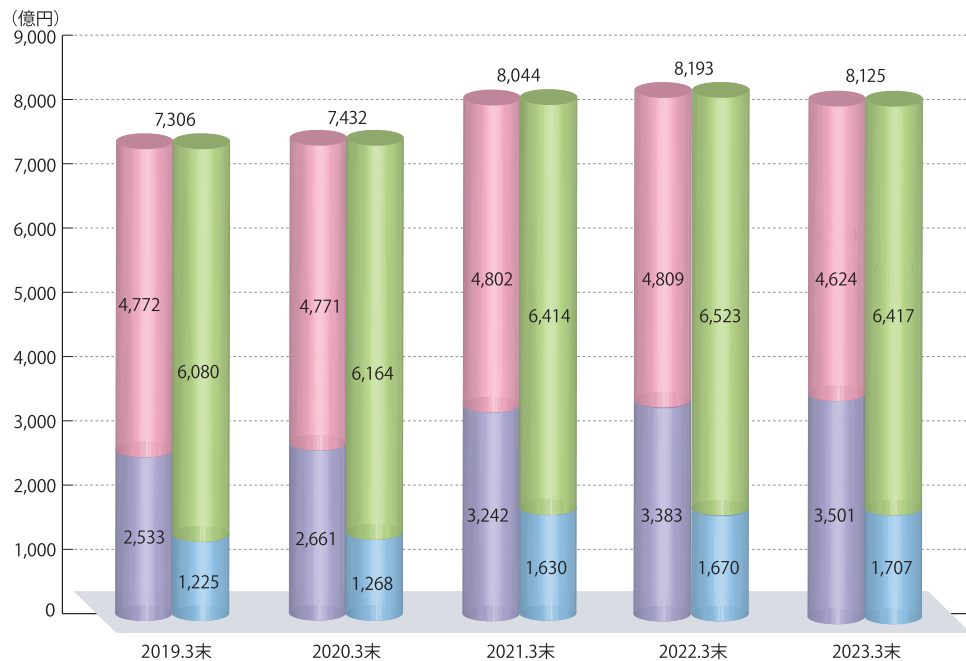
神戸支店(2023年2月)
(特殊詐欺防止訓練)



江井ヶ島支店、西明石支店
(明石警察署2023年3月)

〈にっしん〉は、お客さまに安心・安全にお取引していただけますよう、地域警察の協力のもと、営業店で防犯訓練を実施しています。2023年3月には特殊詐欺を未然に防止したことで、江井ヶ島支店、西明石支店が明石警察署から感謝状をいただきました。

〈預金〉 預金 (定期性 流動性) (個人 法人)



【預金】

預金は、2022年3月末に比べて67億円減少し8,125億円となりました。

定期性預金は、預金コストの削減を図るために、計画的にキャンペーン金利を低めに設定したことにより185億円減少しました。半面、流動性預金は117億円増加となりました。これは、新たなお客さまが増えたことや、個人定期預金からの振替等によるものです。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

【貸出金】

貸出金は、2022年3月末に比べて61億円増加し3,995億円と過去最高となりました。これは、新型コロナウイルスの影響や原材料高騰等の影響を受けたお客さまへの伴走支援に積極的に取組んだことが主な要因です。また、兵庫県信用保証協会保証付き新型コロナウイルス感染症関連融資は30億円減少したものの、保証協会・保証会社の保証をつけない貸出金が88億円増加したことで、貸出金の増加率が預金の増加率を上回り、預貸率は1.15ポイント増加しました。

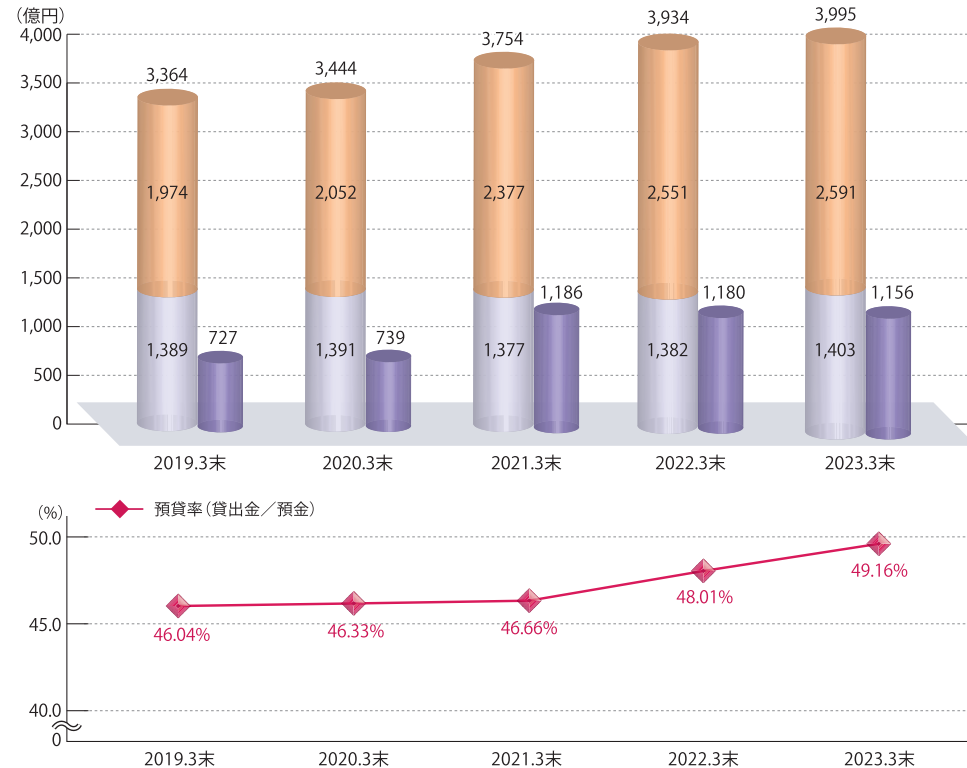
資金用途別でみると、2022年3月末に比べて運転資金にかかる貸出金残高で39億円の増加、設備資金にかかる貸出金残高で21億円の増加となりました。

今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

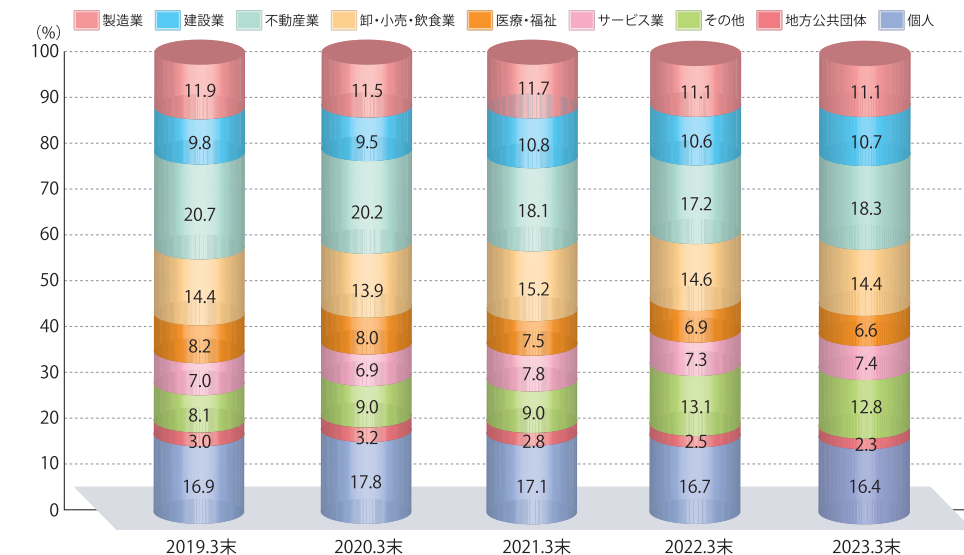
【業種別構成比】

貸出金の業種別構成比の推移をみると、2022年3月末に比べて、不動産業で1.1ポイント、建設業で0.1ポイント、サービス業で0.1ポイント増加し、反面、卸・小売・飲食業で0.2ポイント、医療・福祉で0.3ポイント、その他で0.3ポイント、地方公共団体で0.2ポイント、個人で0.3ポイント減少しました。

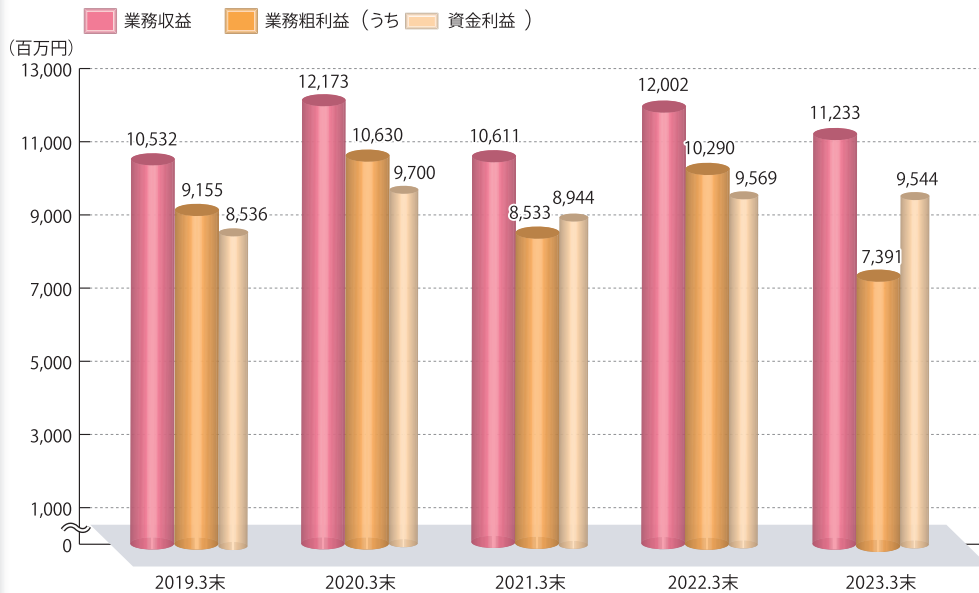
〈貸出金と預貸率〉 貸出金 (運転資金 設備資金) うち 保証協会保証付貸出



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

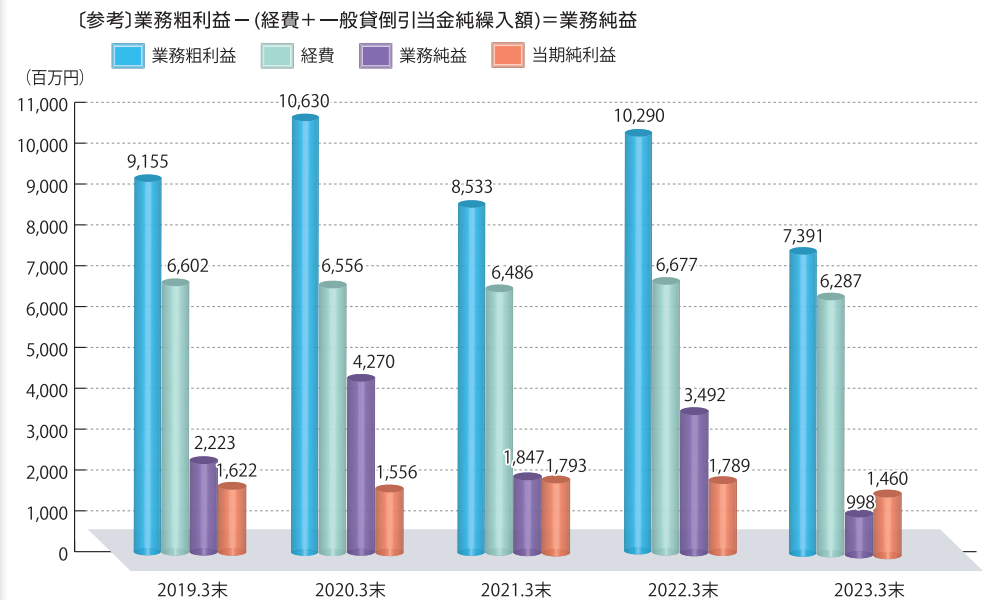


業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、一般企業の売上に当たります。貸出金利息収入が104百万円増加したものの、投資信託解約益の減少で有価証券利息収入が252百万円減少したことや、債券売却益が640百万円減少したことから、2022年3月末に比べて768百万円の減収になりました。

業務粗利益(業務収益－預金利息等の原価)は、業務収益の減収に加えて債券売却・償還損が2,232百万円増加したことから、2022年3月末に比べて2,898百万円の減益となりました。

金庫の中核的業務から得られる資金利益(貸出金、有価証券、預け金の運用から発生する利益－預金支払利息)は、貸出金利息収入や預け金利息収入が増加したものの有価証券利息収入が減少したことから、2022年3月末に比べて24百万円の減益となりました。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益－経費等)、当期純利益〉

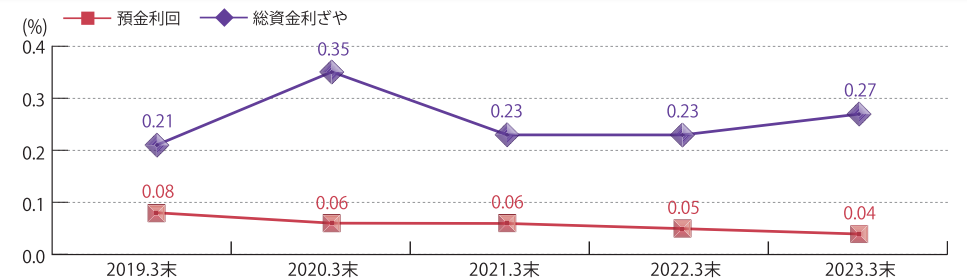
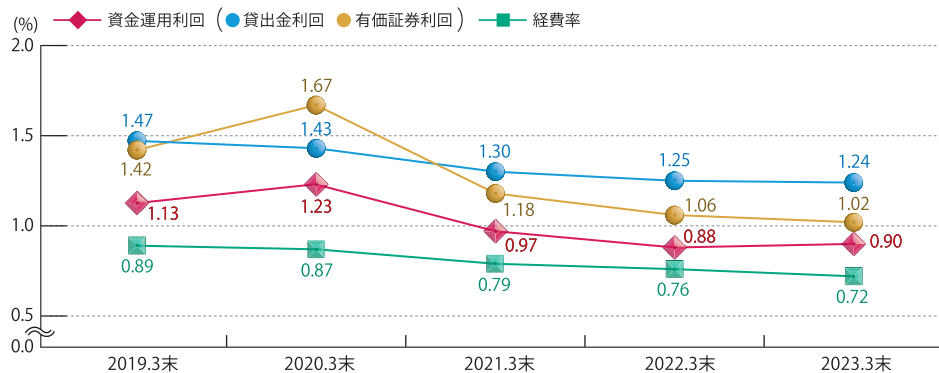


経費は、預金保険料の低減をはじめ物件費の削減により2022年3月末に比べて390百万円の減少となりました。

業務純益は、経費が減少したものの業務粗利益の減益により、2022年3月末に比べて2,494百万円の減益となりました。

当期純利益は、個別貸倒引当金繰入額など臨時費用が減少したものの業務純益が減益となったことから、2022年3月末に比べて329百万円減益の1,460百万円となりました。

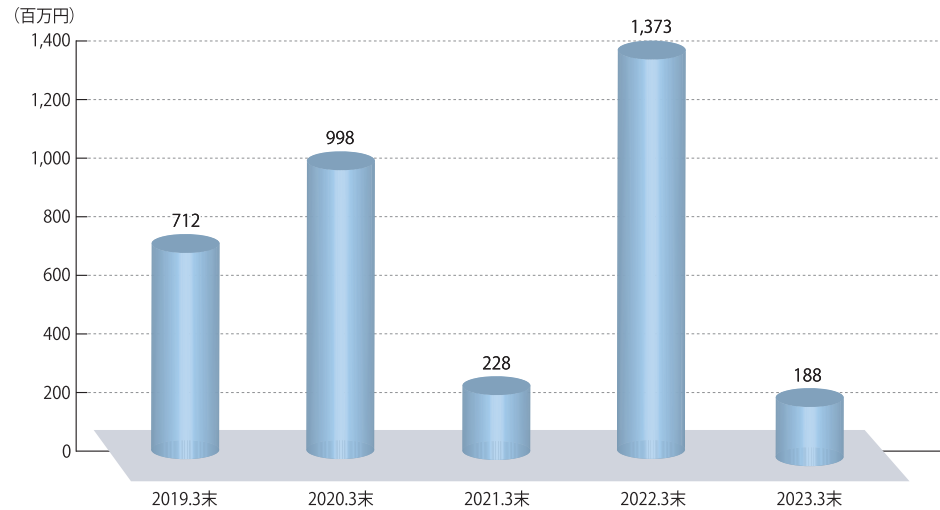
〈資金運用利回(貸出金利回＋有価証券利回)、預金利回、経费率、利ざや〉



資金運用利回は、貸出金利回や有価証券利回が低下したものの有価証券に比べて利回りの高い貸出金残高が増加したことから0.90%になりました。

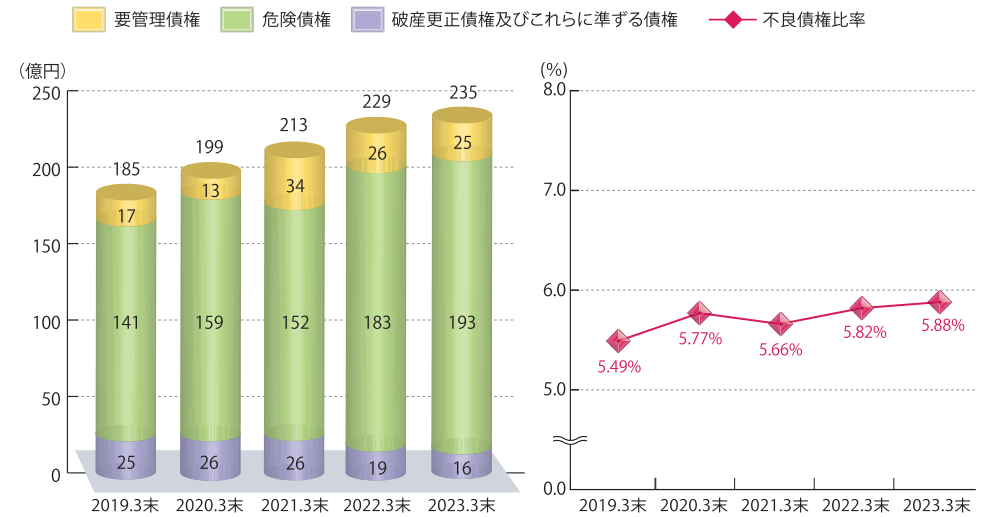
総資金利ざやは、資金運用利回の改善と経费率の低下により0.27%に上昇しました。これからも収益力の強化に努めてまいります。

〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



不良債権処理費用等は、2022年3月末に比べて大きく減少し、188百万円となりました。これは、大口融資先の倒産等がなかったことから、不良債権処理費用が減少したものです。今後も貸出債権の不良化防止に向けて、お客さまの課題についてきめ細かな支援を全力で取組むと同時に、将来のためにも十分な引当を行ってまいります。

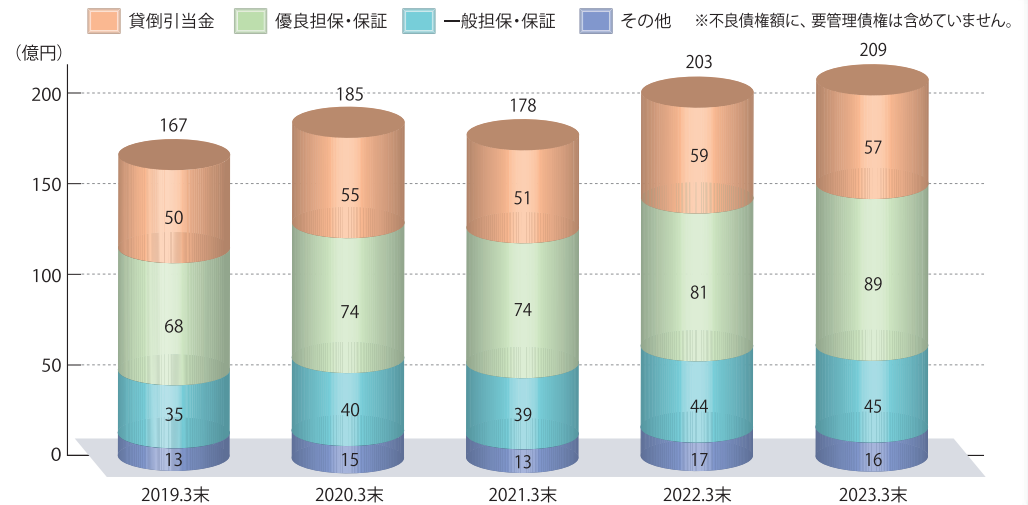
〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



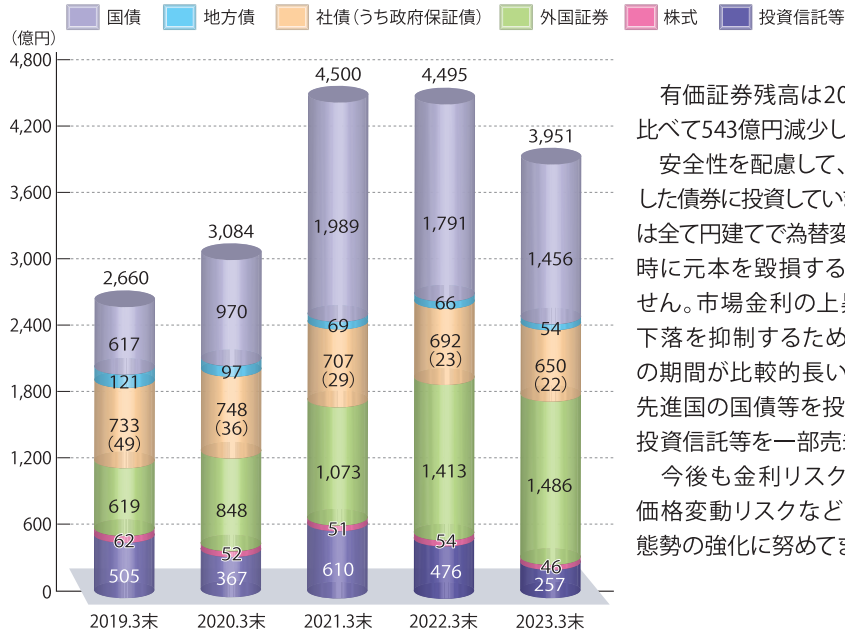
不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。不良債権残高は、原材料高、円安等の影響等により返済条件の変更を希望されるお客さまの増加等により、2022年3月末に比べて6億円の増加の235億円となりました。不良債権比率は、2022年3月末に比べて0.06ポイントの上昇の5.88%となりました。事業性評価や外部支援等を活用して、お客さまの経営改善に一体となって取組み、不良債権の減少に努めてまいります。

〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

不良債権(要管理債権を除く)209億円の保全状況は右の通りです。貸倒引当金は57億円計上しています。会計上損失処理済となります。優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている全額89億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている全額45億円、合わせて135億円は回収が確実であると見込んでいる額です。残りの16億円は、これまでの回収実績等から回収可能と見込まれる額です。



< 有価証券の種類別保有状況 >

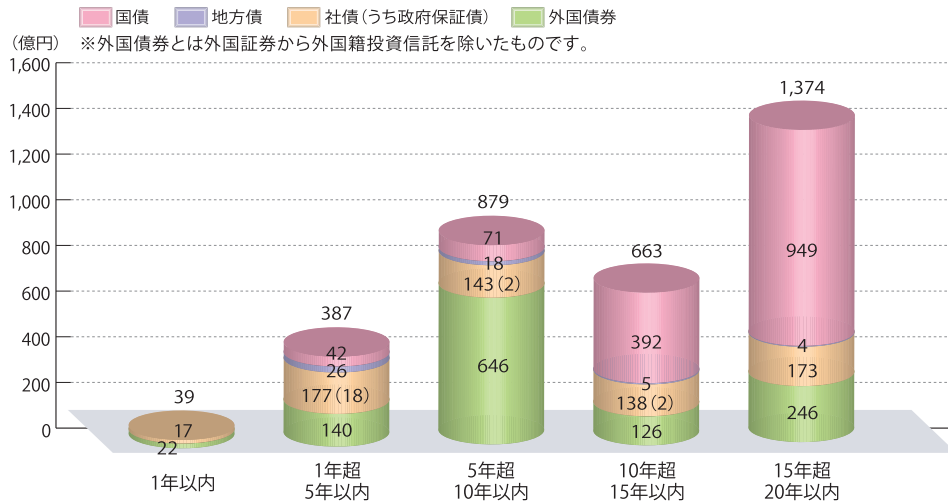


有価証券残高は2022年3月末に比べて543億円減少しました。

安全性を配慮して、国債を中心とした債券に投資しています。外国証券は全て円建てで為替変動により償還時に元本を毀損するものではありません。市場金利の上昇に伴う価格下落を抑制するために、満期までの期間が比較的長い国債や、欧米先進国の国債等を投資対象とした投資信託等を一部売却しました。

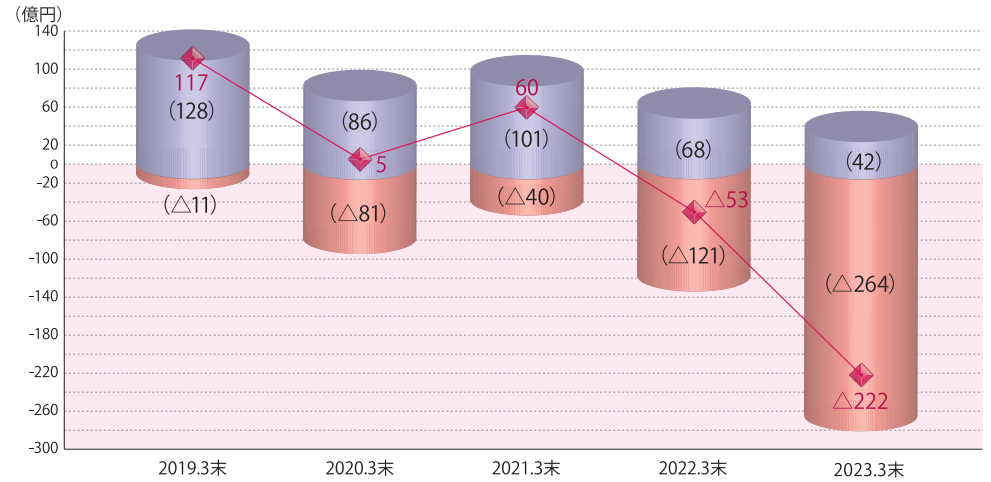
今後も金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めてまいります。

< 債券〔償還までの期間別に見た残高〕(2023年3月31日現在)>

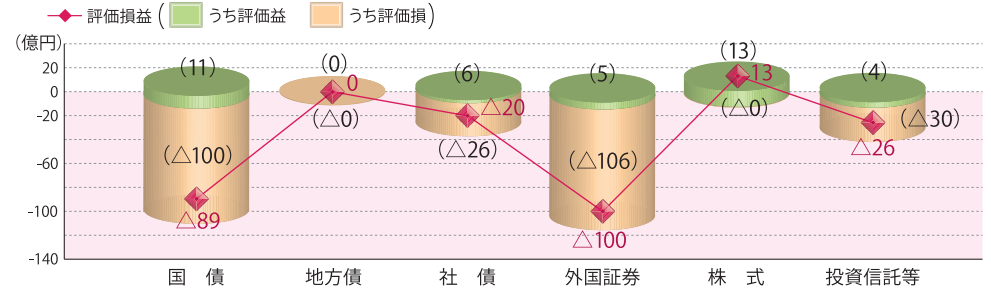


有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りは低利であるため、期間10年超20年以内の国債、地方債、社債、外国債券にも投資しています。なお、期間20年超の債券への投資は行っていません。

< 有価証券の評価損益の推移 >



< 有価証券の種類別の評価損益 (2023年3月31日現在) >



有価証券の評価益は42億円、評価損は264億円、有価証券全体で差引222億円の評価損となっています。

評価損の拡大は欧米など先進国がインフレ抑制等のため、短期間に政策金利を大幅に上げたことによるものです(下図参照)。有価証券のうち債券の評価損は188億円で約7割を占めています。債券は金利上昇局面では評価損となるものの、投資先の倒産等がなければ額面全額が償還されるので、原則として保有を継続する予定です。しかしながら、市場金利の上昇に備えて一部売却も進めてまいります。

債券とは

債券は、資金を必要とする国や地方公共団体、会社などが資金を調達するために発行されます。

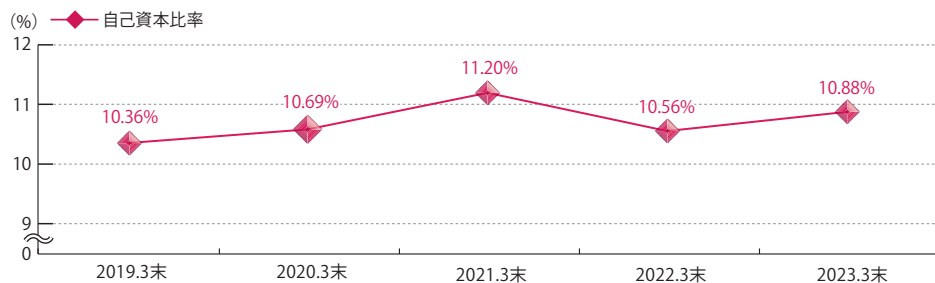
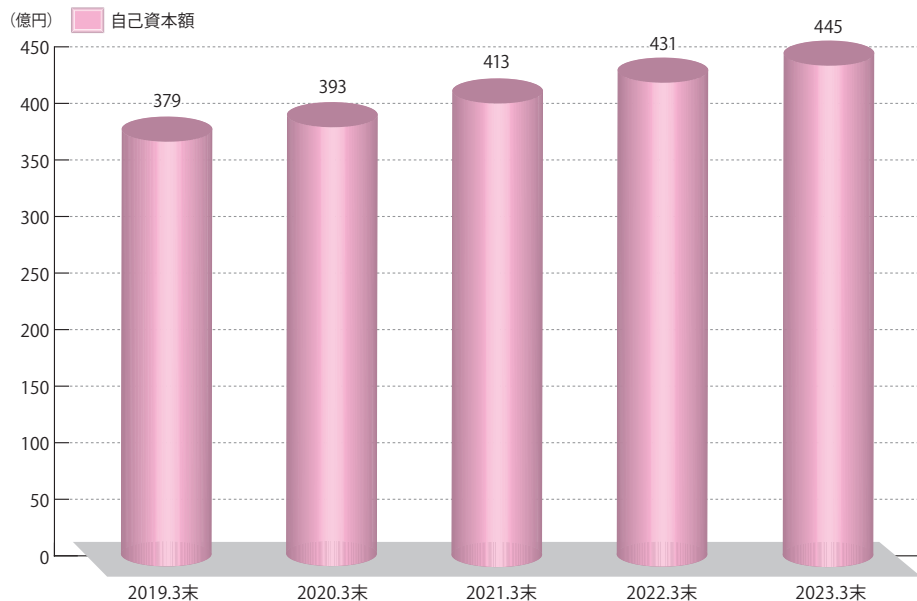
一般的に満期償還時に額面全額が償還されることから比較的安定的な運用が可能です。

満期償還前でも売却による換金が可能です。債券の価格は市場の状況により日々変動しますので、満期償還前に売却した場合は投資元本を割り込むことがあります。

市場金利の推移



〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



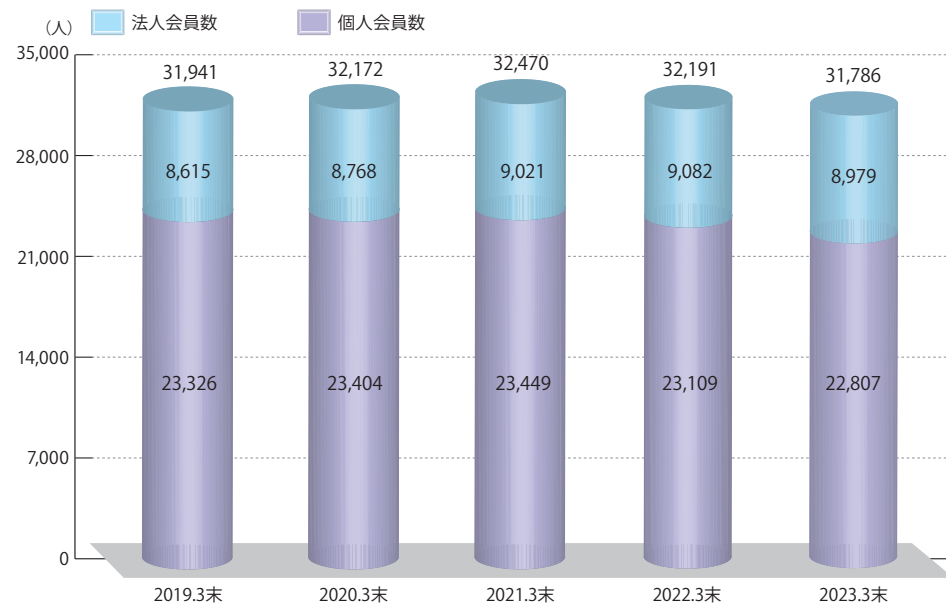
	2019.3末	2020.3末	2021.3末	2022.3末	2023.3末
リスクアセット (億円)	3,660	3,680	3,689	4,082	4,098

自己資本比率は、10.88%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、貸出金や外国証券の増加などによりリスク・アセット等の合計額が15億円増加したものの、自己資本の額が14億円増加したことから、2022年3月末に比べて0.32ポイント向上しました。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

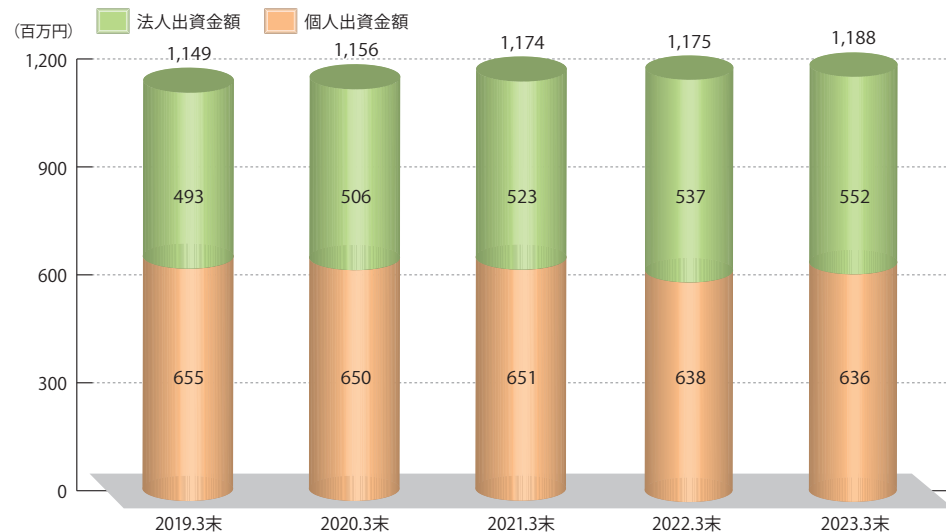
これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

〈会員数〉



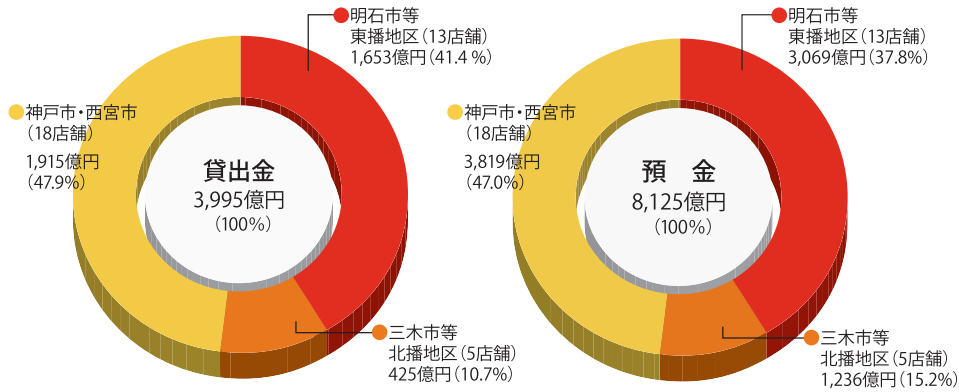
所在不明会員の除名および死亡等による法定脱退が多く、会員数は2022年3月末に比べて405人減少しました。

〈出資金額〉

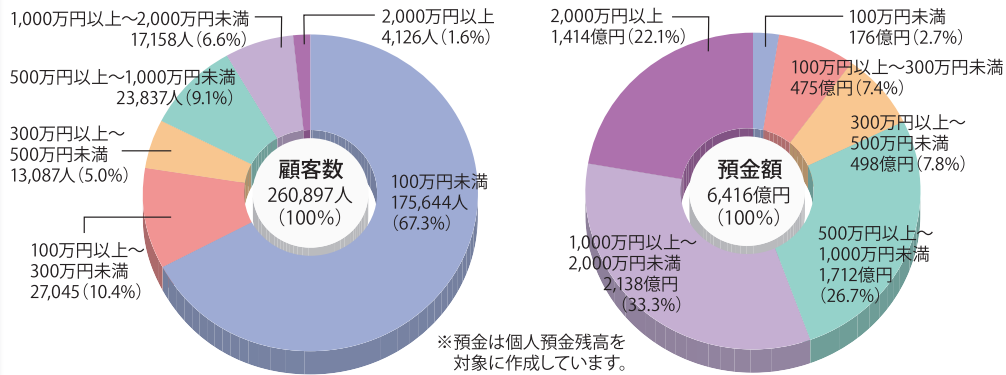


会員数は減少しましたが、新しい会員の出資金額が増えたため、出資金額は増加しています。

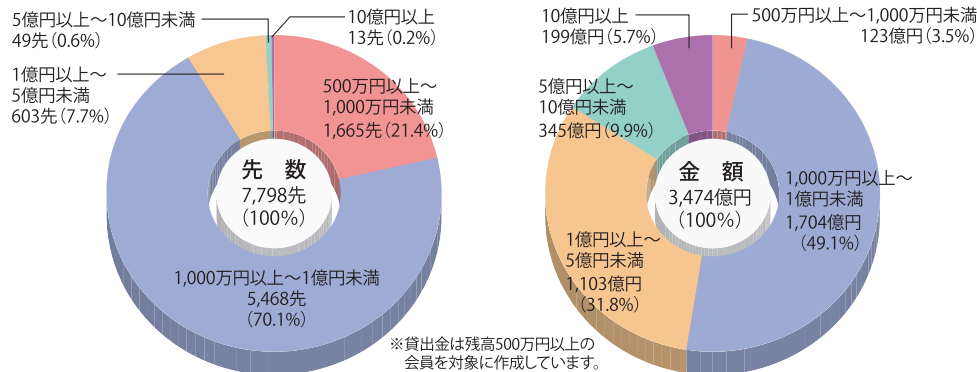
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (2023年3月31日現在)



〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別に応じた顧客数と預金額〉 (2023年3月31日現在)



〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別に応じた先数と金額〉 (2023年3月31日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (2022年9月30日現在)

